

2018年度秋学期 水曜5限
世界教養科目「国際社会をひもとくB」

オリンピック・パラリンピックを考える

講座開設の趣旨

(授業コード：180226)

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催まで2年あまりとなり、徐々に人々の意識も変化し、気運も高まっています。とかく祭典としての側面が注目されがちなオリンピックおよびパラリンピックですが、その実施にあたっては政治的・文化的なさまざまな事情が絡み合っています。この授業を通して、オリンピック・パラリンピックという国際的な祭典の背後に渦巻く、グローバル化した現代社会ならではの要因を見抜く力を養います。

講座スケジュール(予定)

1. 10月3日：オリエンテーション
2. 10月10日：「オリンピックと政治・外交（1）」望月敏夫
(日本オリンピック・アカデミー理事/元駐ギリシャ大使)
3. 10月17日：「オリンピックと政治・外交（2）」同上
4. 10月24日：「オリンピックと政治・外交（3）」同上
5. 10月31日：「大国による大国のための祭典？」春名展生（本学准教授）
6. 11月7日：「近代オリンピックの現代的課題」荒井啓子（学習院女子大学教授）
7. 11月14日：「近代オリンピックと異文化理解－ヴェールをめぐる葛藤と共存性」同上
8. 11月28日：「オリンピックとジェンダー－女性スポーツの現在」同上
9. 12月5日：「パラリンピックと日本の障がい者運動」友常勉（本学教授）
10. 12月12日：「パラリンピック/アクセシビリティ」
犬島朋子（東京2020組織委員会パラリンピック統括課）
11. 12月19日：「『グローバル・シティ間のコンテストの場』としてのオリンピック・パラリンピック」
友常勉（本学教授）
12. 1月9日：「オリンピックとメディア」結城 和香子（読売新聞社 編集委員）
13. 1月16日：「東京2020大会の概要」手島浩二（東京2020組織委員会 総務局長）



オリンピック・パラリンピックを切り口に
文化や社会を考えよう！

各講座概要のご紹介

「オリンピックと政治・外交」

(10/10,17,24)

望月敏夫 先生

(日本オリンピック・アカデミー理事/元駐ギリシャ大使)

現代社会では、オリンピックを含むスポーツが益々重みを増しているため、社会の他の諸要素（政治、外交、ナショナリズム、商業主義、メディア等）とスポーツとの相互作用が不可避となっている。この授業では、特に政治・外交との関係とメカニズムを歴史的、実証的に検証し、2020東京大会後も見据えた課題を3回にわたって検討する。

「大国による大国のための祭典？」

(10/31)

春名 展生 先生(本学大学院国際日本学研究院准教授)

近年のオリンピックでメダルを獲得しているのは経済大国出身の選手ばかりであり、今後の開催地として決まっているのは経済大国の都市ばかりである。この授業では、この事実とその背景を確認したうえで、オリンピックの望ましい将来について考えたい。

「近代オリンピックの現代的課題」(11/7)

荒井 啓子 先生 (学習院女子大学教授)

オリンピックは、世界中の異なる文化をもつ異なる環境の人々がスポーツを通じて集い、互いの文化や生き方を理解する好機会となることを意味している。しかし、そこには、政治・経済・人種・メディア・ジェンダー等と関わる厳しい「現実」が内在してきた。これまでの大会を概観し、オリンピックの現代的課題に接近したい。

他,荒井先生による講座

「近代オリンピックと異文化理解

－ヴェールをめぐる葛藤と共存性」 (11/14)

2012年に開催されたロンドン大会では、「近代スポーツ」がイスラム女性選手のヴェール着用を許容したかのように見えた。しかし、種目特性によってはあるいはヴェール着用の仕様によっては未だ女性のオリンピック大会出場は難しい側面がある。「オリンピックの根本原則」に照らしつつヴェールの世界との共存性を考える。

「オリンピックとジェンダー－女性スポーツの現在」

(11/28)

「オリンピック憲章の定める権利及び自由は…性別・性的志向…などの理由による、いかなる種類の差別も受けることなく、確実に享受されなければならない」とある。女性スポーツの足跡を辿りながら人権や多様性を視座にジェンダーについて考える。

東京2020組織委員会職員による講座

「パラリンピック/アクセシビリティ」

犬島 朋子 氏 (12/12)

(東京2020組織委員会 パラリンピック統括課)

「東京2020大会の概要」

手島 浩二 氏 (1/16)

(東京2020組織委員会 総務局長)

「パラリンピックと

日本の障がい者運動」 (12/5)

友常 勉 先生 (本学大学院国際日本学研究院教授)

障害者解放運動の先駆をなした1972年の全国青い芝の会の活動記録「さようならC P」や今日の「障害学 = disability studies」を参照しながら、障害・障害者とパラリンピックとの間の乖離と交渉をめぐる論点を紹介したい。

他,友常先生による講座

「『グローバル・シティ間のコンテストの場』としてのオリンピック・パラリンピック」 (12/19)

オリンピックには、21世紀に入って、グローバリゼーションとネオリベリズムの限界を敏感に感じ取ったグローバル・シティと国家によるメガ・イベントを介した連携という構図が存在している。国家の祝祭ならぬ「競争力の祝祭」となったメガ・イベントとその負のレガシーについて考える。

「オリンピックとメディア」 (1/9)

結城 和香子 先生(読売新聞社 編集委員)

五輪史の曙から平昌大会まで、オリンピックの裏表をメディアはどう伝え、メディアによって五輪そしてパラリンピック運動はどう変貌してきたのか。それは2020年東京大会開催に向けて、私たちが今考えるべきことへの示唆にも富む。

開講：秋学期水曜5限

授業コード：180226

授業担当者：武田千香

(総合国際学研究院教授)

詳しくは、後日公開されるシラバスをご確認ください。